

日本神経精神薬理学会第 37 回理事会（2006 年度）議事録

日時：2006 年 1 月 30 日（月）18:00～19:30

場所：八重洲倶楽部 第 2 会議室（東京）

出席者：野村靖幸理事長、小川紀雄、岩崎庸男、大熊誠太郎、加藤進昌、亀井千晃、
佐藤光源、鈴木勉、鍋島俊隆、西川徹、野村総一郎、樋口輝彦、山脇成人、
油井邦雄（以上、理事） 佐藤公道監事

議事：

・報告事項

1. 第 36 回年会準備状況報告

尾崎年会長の代理として鍋島理事より本年会開催に関する概要が報告された。

とくに、本年会は第 28 回日本生物学的精神医学会年会・第 49 回日本神経化学大会との三学会合同年会として平成 18 年 9 月 14 日（木）～16 日（土）に名古屋において開催予定であり、各年会の発表がスムーズに行くように配慮していること、三学会合同のメリットを生かし意義あるものにしたいことが述べられた。

2. 各種委員会報告

a. 編集委員会（野村（総）委員長）

野村（総）委員長より、6 号の抄録号を廃止としたこと、代わりに学会シンポジウムを掲載する予定であること、JSNP ミニレビューとして海外雑誌に投稿した原著をまとめたミニレビューを掲載する枠を設けたこと、などについて報告された。なお、JSNP ミニレビューは前回理事会にて確認されたとおり学会賞の対象となることも承認された。

油井理事より外国人の編集委員追加が提案され、今後、編集委員会にて検討することとなった。

b. 財務委員会（大熊委員長）

大熊委員長より 2005 年度の見込み決算が提示され、問題なく運営されていることが報告された。

また、休止中のまま保持している電話加入権（2 件）について協議され、現状では必要ないこと、NTT が電話加入権制度を廃止する予定であることなどから転売することとなったが、現在の電話加入権の相場は下落しているため、名目上の価値との差額が 2006 年決算時に損金として 15 万円程度計上されることとなることが分かった。

c. 国際学術委員会（山脇委員長）

山脇委員長より以下の通り報告された。

第 25 回 CINP 大会開催の件：

会長： Herbert Meltzer

会期： 2006 年 7 月 9～13 日

会場： Lakeside Center McCormick Place (シカゴ・米国)

リーフレットが年会費請求書に同封された。

国際老年精神薬理学会（ICGP）開催の件：

会長： 山脇 成人 教授（広島大学大学院医学研究科）

会期： 2006年10月4～6日

会場： 広島国際会議場（広島）

本学会として公式に後援し、振興基金より補助金を支出する。

d. 学術賞選考委員会（鈴木委員長）

本年度学術受賞候補者は選考準備中であることが報告され、昨年度よりミニレビューが評価対象となったことが改めて報告された。

e. 長期計画委員会（小川委員長）

メールによるアンケートなどへの協力が要請された。

f. 広報委員会（加藤委員長）

ホームページを開設したこと、英文ページについて検討していることが報告された。また、ホームページ開設等経費の予算化について協議し、本年度予備費から捻出することとなった。

g. 倫理委員会（亀井委員長）

倫理規定について検討されることとなった。倫理規定を各理事宛に送付し、意見などを集約することにした。

h. 研究推進委員会（西川委員長）

現在委員会構成メンバーを検討中であることが報告された。

i. 総務委員会（樋口委員長）

樋口委員長より、Web 上にて会員情報変更が可能になったため、パスワードと通知文を年会費請求書に同封したことが報告された。

j. その他

佐藤(光)理事より3月13日からCINP アジア・パシフィックが開催されることが報告され、シンポジウムを開催することもあり多数の参加が要請された。

・ 審議事項

1. CINP の件

2010年のCINPを日本で開催するよう要請されていることが国際学術委員長である山脇理事より報告された。野村理事長より、前回理事会において誘致を検討した経緯を踏まえ検討することが指示された。また、佐藤(光)理事よりWPAの経験などについて説明があった。海外との関係、日本臨床精神神経薬理学会との連携、日本生物学的精神医学会との協力などを考慮して検討し、誘致を準備するため、山脇理事を中心に招致準備委員会(仮称)を立ち上げることとなった。山脇理事が誘致準備委員長に就任し、委員構成は山脇理事に一任すること、また本委員会において誘致するかどうかも含め2006年7月のCINP(シカゴ(米国))で開催予定)までに結論を出すこととなり、同決定内容は持ち回り理事会にて提案されることとなった。

2. 次々期年会長の選出

次々期(2008年)年会長の選出について協議し、日本生物学的精神医学会、日本神経化学会との合同開催なども考慮し、引き続き検討することとなった。

以上